

# 科技高 いきもの記

Vol.27 2021.5.18

佐藤龍平

## 不気味な幼虫の正体は美しいテントウムシ アカホシテントウ



動かなくなった幼虫（前蛹）

脱皮殻の中の蛹

アカホシテントウの蛹と前蛹 普通は幼虫の抜け殻は残さないが、アカホシテントウは抜け殻の中で蛹になるという変わった方法をとる。この方が抜け殻を鎧のように使えるのだろうか。見た目はかなり強烈だ。

—羽化の様子—（下図）



羽化したての成虫（5月13日）  
（左）幼虫や蛹の姿からは想像ができないほど美しい。羽を伸ばして乾かす。  
（上）1.5時間後、羽は折りたたまれ、蛹の時の不要物をおしっことして排出した。  
（右）10時間後にはすっかり色がついた。



—蛹化の様子—  
（右図）

前蛹



①タマカタカイガラムシ（メス）を守るアリと捕食しようとするアカホシテントウの幼虫。アリはカイガラムシから甘露をもらう代わりにボディーガードになっている。



③前蛹の背中が割れて蛹が姿を現した。蛹が身をくねらせている。（4月26日）



②動かなくなった終齢幼虫。触っても動かないが、敵撃退用の黄色い液体（アルカロイドを含む）を出してきた。まだぎりぎり蛹にはなっていないようだ。



④蛹の色が濃くなり全く動かなくなった。からだ固まってきたようだ。